



(左)

仙台に向かう新幹線から撮った写真です。

屋根の瓦が落ちて、ブルーシートがかけられている家々が散見されました。



(右)

仙台駅の写真です。被災の影響は全く見当たりませんでした。



(右)

オリエンテーションの風景です。

ELV機構、SPN、ビッグウェーブ、東日本協同組合からの参加者が1つにまとまって真剣に話を聞いています。



(左)

配布された作業指示書の一部です。

指揮系統がきちんと取られ、効率的に作業できる体制が整えられています。



(左右)

被災車両を回収するために、全国から集まった車両。
約30台が整然と並べられ、出勤を待っています。



(左右)

朝の朝礼が始まります。参加人数は50人以上。県の職員も参加します。
風の強い日だと、目が痛くなる人もおり、作業環境は決して良くありません。
防塵マスクを着けて作業することが義務付けられています。



(左右)

朝礼が終わるとグループミーティング。
担当区域ごとに集まって打合せします。



(左右)

ミーティング終了後、直ちに担当区域に向けて出発
ユニック車で手に負えない車両には、ユンボも出動します。



(左)

ユニックを使っての作業風景。

(右)

大手民間企業の敷地に流されていた車両。既に並べられていたため、
この地区は1日で100台近い車両を一時保管場所へ移動させる予定です。



(左)

5月17日、仙台市環境局震災廃棄物対策室の総括主幹の遠藤様と、今後の見通し等についての話し合い。ガソリンが漏れている車やハイブリッド車の扱いについて、万が一、また津波が発生した場合の避難方法、大型車の撤去について等具体的な意見交換が行なわれました。

(右)

仙台市との協定書に調印する栗山代表。

仙台市で発生した被災車両をJ A E R Aが窓口となって処理することになりました。このような形で、地方自治体と契約を結ぶのはJ A E R A創立以来初めてのことです。

これまで会員の方々が黙々と被災地の車両を撤去してきましたが、この地道な活動の積み重ねによって地方行政との信頼関係が構築され、今回の調印に至りました。



(左)

4月23日に撮った写真です。田んぼの中にも多くの車が流されていました。

(右)

今回の取材で撮った写真です。まだ、がれきが残る地区もありますが、目に見えて片付けられてきているのが分かります。



同17日、岩沼市でも、仙台市と同様の協定書に調印しました。
ここでも大型トラックの処理に頭を悩ましている様子でした。
また、地域柄、スクラップになってしまった耕運機等の処理についても相談を受けました。

【最後に】

全国的に廃車が減少し、自社の経営ですら決して楽でない状況の中で、
これだけ多くの会員が参加し、精力的に業務をこなしていく姿が
とても印象的でした。

この第二陣で、組織だった引き揚げ作業は一旦中止されます。

しかし、今回の業界団体の垣根を超えた活動がきっかけとなって、
業界全体の利益のため、日本全体の復興のために、
解体業界がまとまりより大きな活動が出来れば良いと思います。